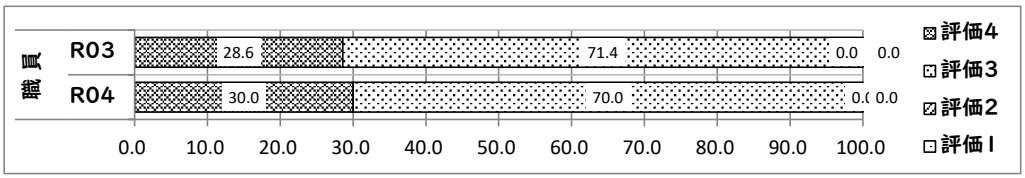
令和4年度 学校自己評価 集計結果及び考察　　四日市市立内部中学校

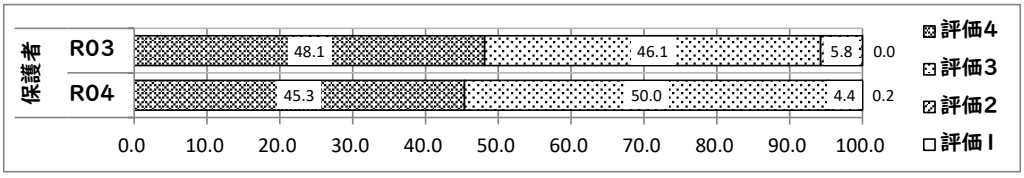
令和5年1月17日

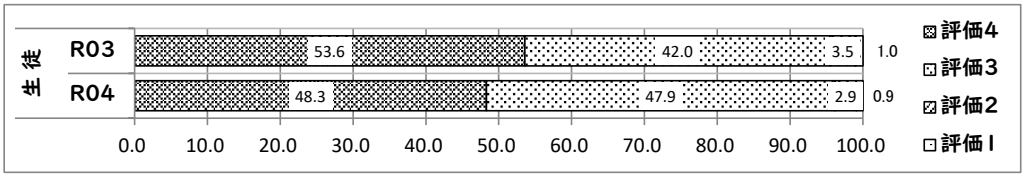
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

①学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。

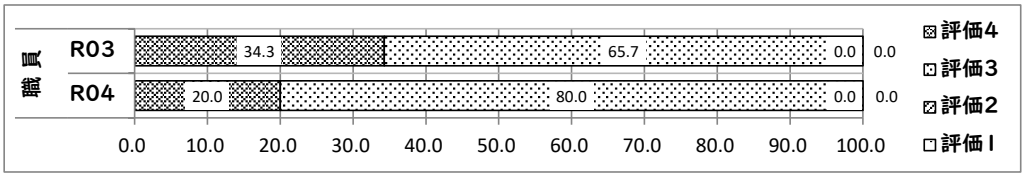


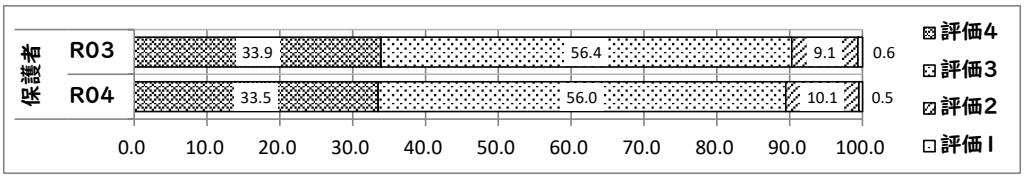


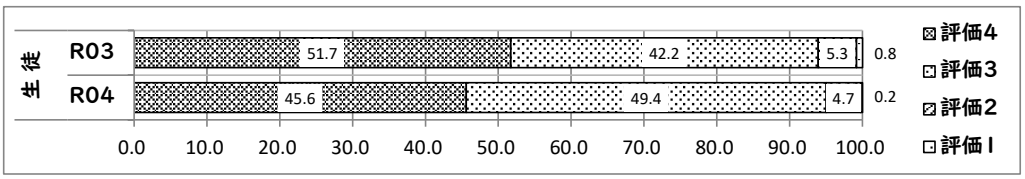


過去2年間のコロナ禍とは異なり、行事等でもできることが増えてきた。まだ限られた人数や状況ではあるものの、保護者の方に来校していただき、子どもたちの様子を見てもらう場面も増えてきたことが95ptを超える「おおむね十分である」以上の評価につながっていると考えられる。その中で「十分である」が保護者、生徒ともに数ptずつ下がっているのは、もっとできることがあるという期待の表れであると思われる。また、前年度に比べて減少はしているものの、「おおむね不十分」「不十分」の評価に目を向けると、コロナ禍の影響で、家庭と学校とのつながりが薄くなる中で、学校教育活動の様子が十分に伝わっていない可能性がある。改めて家庭と学校のつながりを強くしていくことが、今後のより充実した教育活動につながると考えられる。

②学校は、生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。







生徒は、「十分」「おおむね十分」が95pを超えている。教師が工夫して丁寧な授業を行ってきたこと、研修を重ね教科の本質に迫る「楽しい授業」をめざした授業づくり、1人1台タブレットやICT機器の活用、特別支援の視点をもった学習指導に取り組んだことが成果として表れていると考えられる。保護者に関しては「おおむね不十分」「不十分」と感じている保護者が10pt以上いることに着目したい。今後は「生徒にどのような力をつけるのか」という視点をしっかりと持ち、授業改善を行っていく必要がある。職員は14pt以上「十分」という回答が減っている。「主体的で対話的で深い学び」と生徒の「資質・能力の向上」を目指す中で「もっとよい授業ができるのではないか」と模索している過程と考えられる。来年度も授業改善に積極的に臨み、教職員の授業力向上を図りたい。

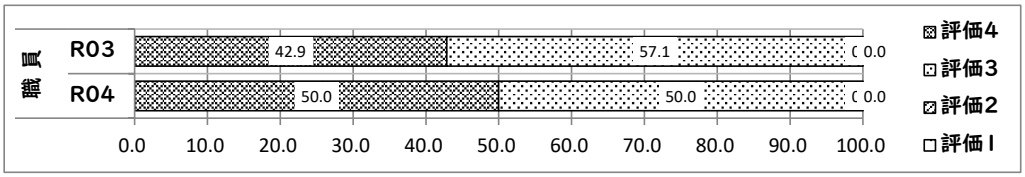
令和4年度 学校自己評価 集計結果及び考察　　四日市市立内部中学校

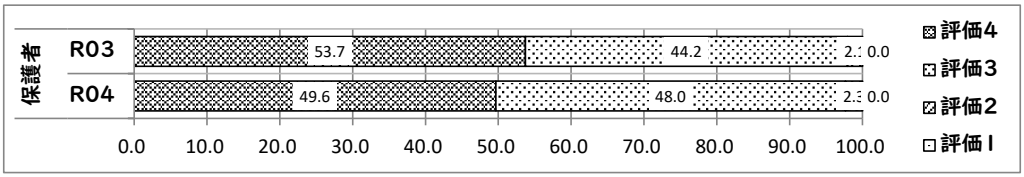
令和5年1月17日

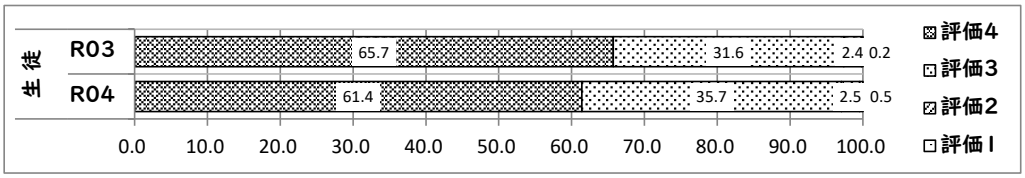
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

③学校は、生徒会活動や委員会活動を通し、主体的に取り組む生徒づくりに努めている。

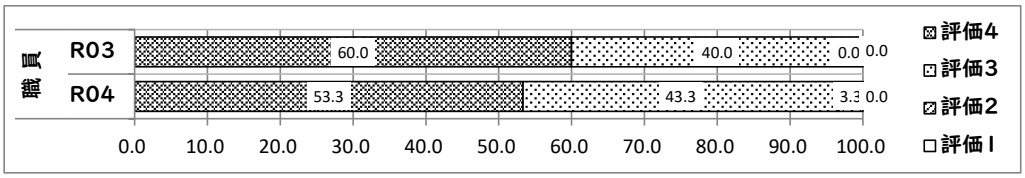


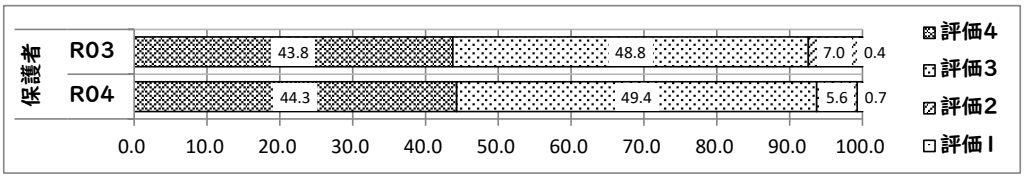


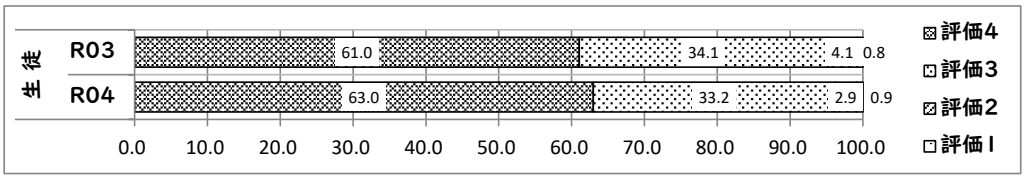


職員、保護者、生徒ともに「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。体育祭や文化祭では生徒会執行部が運営の中心を担い、特に体育祭の生徒会ダンスは今年度で5回目を迎え、内部中学校の伝統的な活動になりつつある。文化祭の取り組みでは、本番での司会進行と併せて、学年リハーサルを代議員が中心となって進行し、自分たちで創り上げている手応えを感じることができた。諸行事を生徒たちが主体的に行うだけでなく、あいさつ運動、手洗いに必須である石けんの補充、校内美化への取り組み、読書活動の推進など各委員会の日常活動がしっかりと機能し、学校生活の大きな支えとなっていることが評価されている要因だと考える。今後も生徒会執行部を中心とした組織づくり、多くの生徒たちが委員会活動で学校生活に貢献し、活躍する場を今後も大切にしていきたい。

④学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。







職員、生徒、保護者ともに「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。これは日頃から道徳や人権教育の取り組み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる成果であると考える。また、昨年度に比べ、保護者、生徒で否定的な評価の割合が減少している。一方で「不十分である」と評価した割合が若干増加している。普段から一人ひとりの生徒にしっかりと向き合い、悩みを持つ生徒や保護者に早めにアプローチがかけられるようにしていくことが必要だと考える。近年はSNS上から発生するトラブルが増加している。認知したものは学校が丁寧に関わったり、日頃からその使用方法について考えさせたりすることに加え、学校と保護者・地域が協力し、生徒が安心して過ごすことのできる環境づくりも大切である。

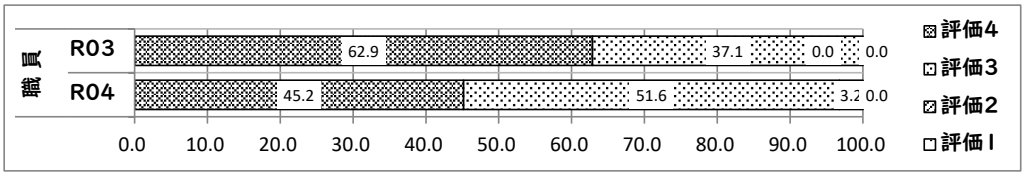
令和4年度 学校自己評価 集計結果及び考察　　四日市市立内部中学校

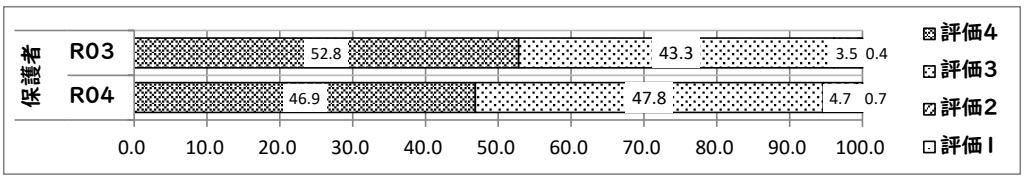
令和5年1月17日

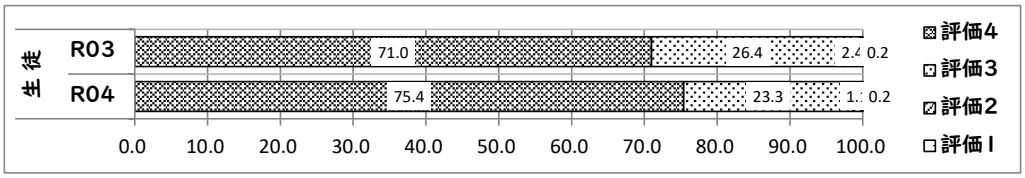
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

⑤学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切にする生徒を育てようとしている。

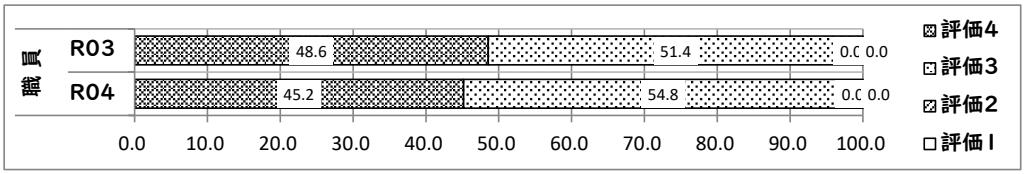


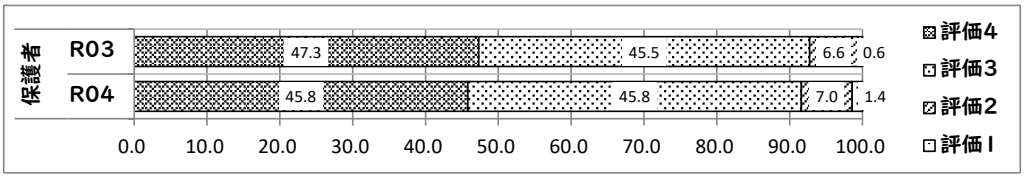


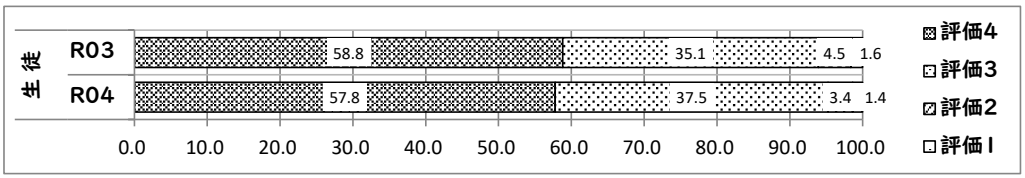


生徒も保護者も「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。いじめや暴力を許さない学校づくりと合わせて、安全で安心な学校づくりが進められていることが受け止められていると思われる。しかし昨年度に比べて職員、保護者の肯定的な回答は減少傾向にある。大人の目線で捉える「豊かな心」「命の大切さや人権を大切にする」取り組みと、生徒が感じていることに、認識の差があるのかもしれない。特に職員の肯定的回答の減少が顕著である。この点については生徒の思いや考えを丁寧に受け止め、教職員が人権学習や特別の教科道徳の授業をより組織的、計画的に進めていくことで課題が克服できると考える。教育活動の様々な場面で、命の大切さや人権を意識した取り組みを進めていきたい。

⑥学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。







職員、生徒、保護者ともに「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。しかし、生徒、保護者ともの肯定的評価の割合は昨年度からわずかに減少している。学校生活に充実感や満足感が得られていない生徒や学校の取組に満足が得られていない保護者の思いをしっかりと受け止め、デイリーライフ（生活ノート）やコアラ（教育相談）など、一人ひとりの生徒の声をしっかりと受け止める場面をより一層大切したい。また担任や特定の教師だけで解決に向かうのではなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等ともしっかりと連携しながら、学校がチームとして対応できるように工夫していきたい。

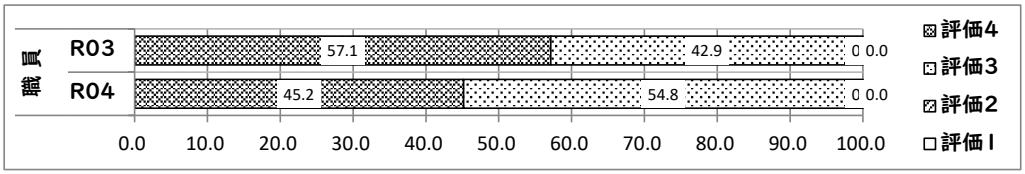
令和4年度 学校自己評価 集計結果及び考察　　四日市市立内部中学校

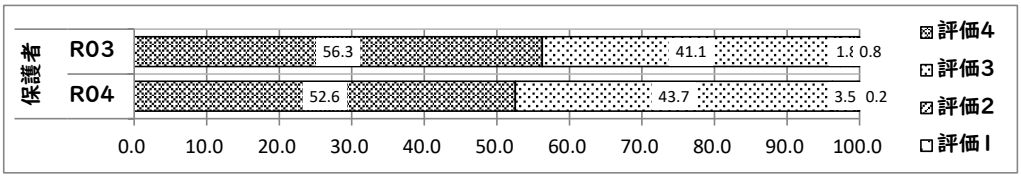
令和5年1月17日

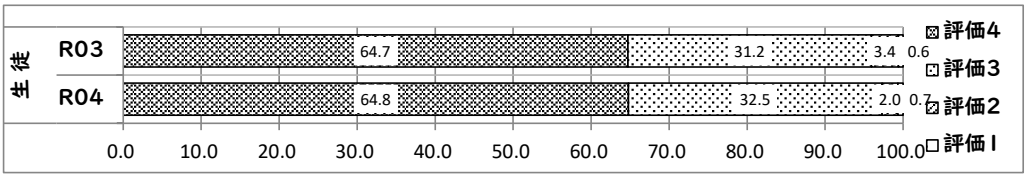
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

⑦学校は、生徒が健康で安全な生活を送れるような学校環境づくりに努めている。

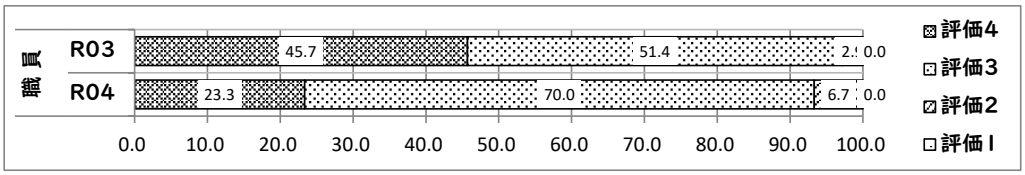


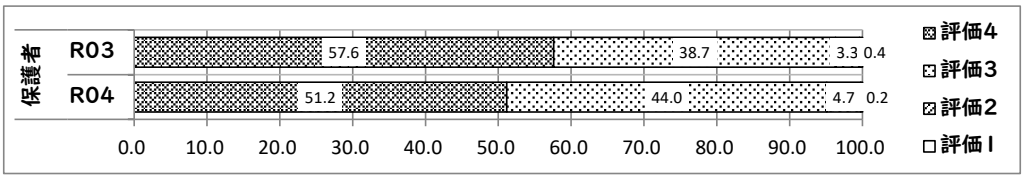


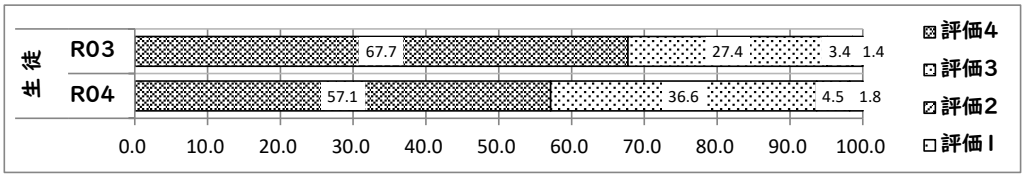


生徒、保護者とも「十分である」「おおむね十分である」が95ptを超えている。しかし俯瞰的にみると校舎の老朽化へ十分に対応できていないことや生徒の自転車の乗り方など、交通マナーが守れていないこと等が課題としてあげられる。危険個所においては、PTAの役員等の協力も得ながら調査を行っている。校内の破損個所等は教職員による日頃の点検や観察だけでなく、生徒からも報告をしてもらい、できる限り迅速に対応できるようにしていきたい。自転車のマナーにおいては、安全委員や教職員からの呼びかけや、安全集会等での自転車の乗り方の意識付けを行っていく必要がある。

⑧学校は、「朝の読書」や「補充学習」等で充実した時間を過ごさせている。







全校での「朝の読書」の静かな時間、「テスト前の学力補充」、今年から全学年で行っている帰りの会前の「マイスタ」への評価であるが、昨年度に続いて、半数以上の生徒が「十分満足している」と評価している。また、保護者は「十分」との回答が5pt下がり、補充学習の様子が伝わっていないことや、学力がついたことを実感させることができていないことが要因だと考えられる。職員は十分満足しているという回答が20pt以上減少しており、「マイスタ」の時間や、テスト前の学力補充を主体的に学習する時間が十分満足できる状態にはなっていないと考えられる。全職員で知恵を出し合い、より良い実施方法について検討していきたい。

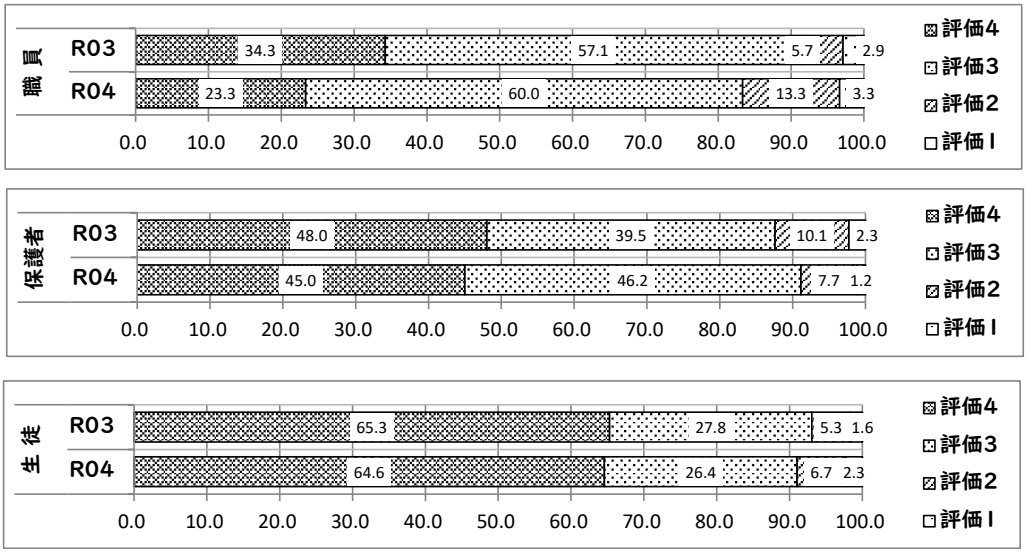
令和4年度 学校自己評価 集計結果及び考察　　四日市市立内部中学校

令和5年1月17日

・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

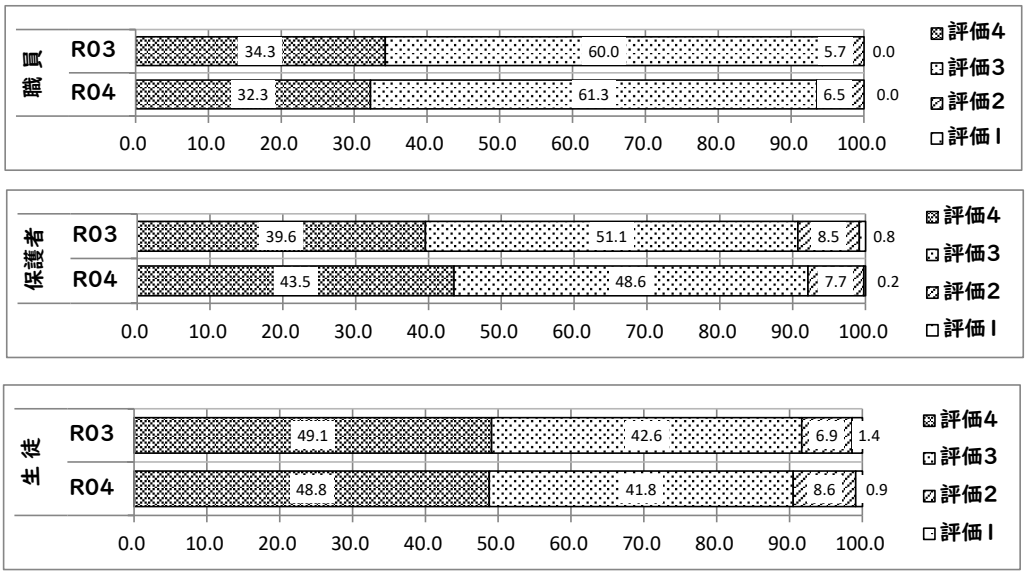
⑨学校は、部活動で適切な指導を行い、楽しいクラブづくりに努めている。



「十分である」「おおむね十分である」が生徒、保護者で90pt以上、職員では80ptを超えている。コロナ禍が続く中ではあるが、大会や活動が少しずつ以前の形に戻ってきたことが肯定的な評価につながっていると思われる。職員の評価が昨年度より下がったのことは部活動の活動時間の確保や、多くの部において顧問の複数配置ができずに一人で指導にあたることが多かったことなどが影響していると考えられる。

今後、部活動の地域移行や土日の部活動のあり方についてさらに深い議論が進められることが予想されるが、教師（指導者）、生徒、保護者がより満足できる活動のあり方をさぐっていきたい。

⑩学校は、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや、自らの生き方（進路）を考えさせている。



生徒、保護者とも「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。このことは、「志授業」の実施や「職場体験」、「高校授業体験」等の体験活動の成果と考える。しかし、生徒の「十分である」「おおむね十分である」の割合が2pt減少していること、職員で6ptが否定的な評価をしていることが課題である。体験活動だけでなく、普段の教育活動をキャリア教育の視点でとらえ、「今学んでいることが将来どのように活きるのか」、「将来をどのように生きていきたいか」など将来についてを様々な場面で考えられるような工夫が必要である。また、来年度は体験活動の充実はもとより、志をもって生きている大人の話により触れさせる機会をつくっていきたい。